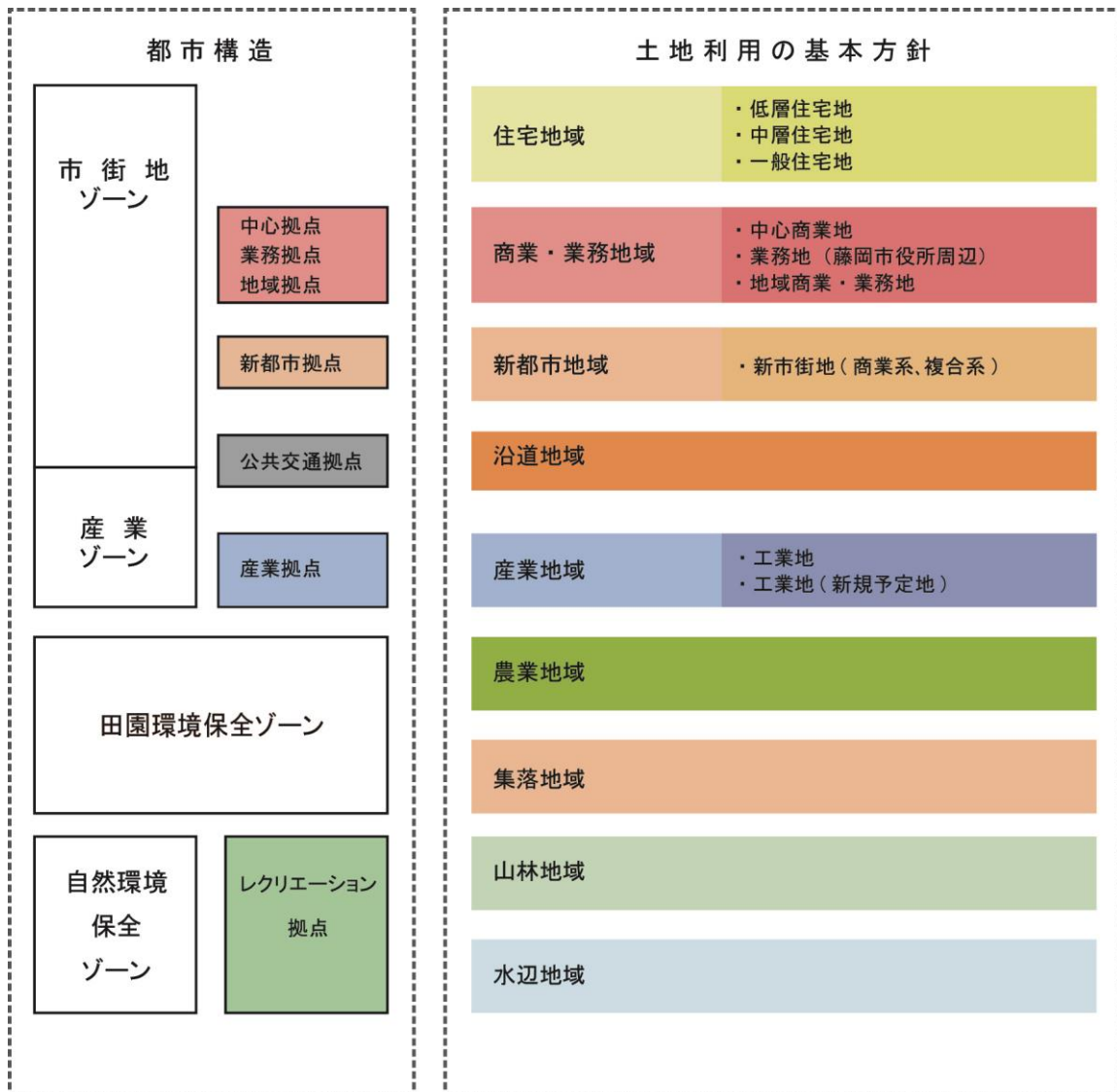


## 第2章 全体構想

### 1 土地利用の基本方針

土地利用の基本方針では、「将来土地利用（ゾーニング）」と「拠点」「軸」におけるそれぞれの位置づけを踏まえ、土地利用に関するより具体的な方針と、方針の実現に資する施策等の考え方を示します。



### (1) 住宅地域

住居系用途地域が指定されている地域を「住宅地域」とし、生活基盤の改善、秩序ある開発行為等の誘導や土地利用制限の見直し等により、暮らしやすい居住空間の維持、創出を図る地域と位置づけます。また、市街地の低密度化を防ぎ、一定の人口密度を保つため、市街地への居住誘導、定住促進に取り組みます。

#### ① 低層住宅地

第一種低層住居専用地域が指定されている地域については、質の高い居住環境の形成に向け、生活道路をはじめとする生活基盤の改善や緑化の推進等を図ります。

- 低層専用住宅地としての居住環境の向上
- 土地区画整理事業等による良好な居住環境の創出（北藤岡駅周辺土地区画整理事業）

#### ② 中層住宅地

中高層住居専用地域（第一種、第二種）が指定されている地域については、今後も戸建て住宅や共同住宅等を中心とした専用住宅地として、生活基盤の整備・改善を図ります。また、地域固有の特性や諸問題への対応が必要な際には、地区計画等を活用した環境保全・改善についても検討します。

- 生活基盤を整備・改善
- 地区計画等を活用した環境保全・改善の検討

#### ③ 一般住宅地

住居地域（第一種、第二種）が指定されている地域については、一般住宅地もしくは沿道市街地としての環境保全に努めます。また、地域固有の特性や諸問題への対応が必要な際には、地区計画等を活用した環境保全・改善についても検討します。

北藤岡駅周辺土地区画整理事業地内については、良好な居住環境の創出に向け、事業の取り組みを進め、駅前の特性を活かした住宅市街地の形成に努めます。

- 一般住宅地もしくは沿道市街地としての環境保全
- 地区計画等を活用した環境保全・改善の検討
- 土地区画整理事業による良好な居住環境の創出（北藤岡駅周辺土地区画整理事業）

## (2) 商業・業務地域

商業系用途地域が指定されている地域と、地域の拠点として商業・業務施設等の集積を図る地域を「商業・業務地域」とし、都市基盤の改善や機能の強化、さらには土地の有効活用の促進により、商業・業務機能等の向上を図る地域と位置づけます。

### ① 中心商業地

主要地方道藤岡本庄線沿道から JR 群馬藤岡駅周辺に広がる市街地は、古くから開けた既成市街地であり、藤岡の歴史を感じさせる街並みが残る反面、家屋の密集や狭あい道路といった都市構造上の課題を抱えており、求心力の低下とともに市街地の空洞化が進んでいます。

旧来からの市の中心として、藤岡らしい風情を残しつつ、市民の生活を支える商業地として、商業施設をはじめとする都市機能を維持・誘導し、都市基盤の改善と商店街の再生を促進することで、多くの人が集まり、働き、憩う、にぎわいと魅力のある商業空間の形成を図ります。

- ・ 地域資源を活用した個性ある街並み環境の形成
- ・ 都市基盤の改善と商店街の再生による魅力ある商業空間の形成
- ・ 福祉・子育て支援・商業等の都市機能を維持・誘導

### ② 業務地（藤岡市役所周辺）

藤岡市役所周辺には防災センター、保健センター、福祉会館等が立地していることから、行政・業務機能の集積する業務地と位置づけ、市民生活に不可欠な行政・福祉機能を維持するとともに、利用者の利便性の増進を図ります。

- ・ 行政機能を含む業務機能の集積と利便性の向上

### ③ 地域商業・業務地

JR 北藤岡駅周辺の近隣商業地域においては、商業をはじめとした都市機能を維持・誘導します。

鬼石地域複合施設を中心とする鬼石地域は、旧鬼石町の中心であることから、地域の拠点として日常的に利用される商業・業務機能の集積を図ることで、地域の利便性を確保します。

- ・ JR 北藤岡駅周辺に商業等の都市機能を維持・誘導
- ・ 鬼石地域複合施設を中心とした商業・業務機能の集積

### (3) 新都市地域

藤岡インターチェンジ周辺を「新都市地域」とし、広域交通の利便性を活かした複合的な高次都市機能の導入を図る地域と位置づけます。

#### ① 新市街地（商業系）

道の駅ららん藤岡の利便性の向上を図るとともに、既存の商業施設の機能拡充、新たな商業施設の立地が可能となるよう土地利用の誘導を図ります。

- ・ 道の駅ららん藤岡の利便性の向上

#### ② 新市街地（複合系）

広域交通の利便性を活かしながら道の駅ららん藤岡と連携しつつ、住商工を総合的に勘案した産業・交流機能等の拡充を図るべく、既存施設の機能強化と関係施設の新たな配置を検討します。

これら関係施設の配置に向けては、必要な範囲で市街化区域への編入、適切な用途地域の指定、さらには利用方針に則した地区計画の指定を検討します。

- ・ 産業・交流機能の拡充に向けた可能性調査の実施
- ・ 複合的な高次都市機能の導入
- ・ 必要な範囲で市街化区域への編入の検討

### (4) 沿道地域

国道17号、国道254号、主要地方道前橋長瀬線、都市計画道路小林立石線の沿道については、隣接する住宅地との調和に配慮しつつ、沿道型商業施設等の適切な立地誘導を図り、良好な沿道市街地の形成に努めます。

- ・ 沿道型施設の適切な立地誘導
- ・ 良好な沿道市街地の形成

### (5) 産業地域

工業系用途地域が指定されている地域及び今後新たな産業立地を検討する地域を「産業地域」とし、生産環境の改善、機能の強化や新たな産業基盤の整備による産業の振興を図ります。

#### ① 工業地

市内に点在する工業団地などの工業集積地は、本市を支える重要な産業基盤であることから、今後も良好な生産環境を維持します。

- ・ 良好な生産環境の維持

## ② 工業地（新規予定地）

新たな工業団地として、東平井工業団地（第二期）の整備を推進します。また、西部工業団地、北部工業団地、牛田工業団地周辺については今後の工業需要の動向を見据えながら用地の拡大を検討します。

- ・ 東平井工業団地（第二期）の整備
- ・ 既存工業団地周辺における工業用地拡大の検討

## （6）農業地域

農用地区域をはじめとする優良農地については、第1次産業の重要な生産基盤として無秩序な開発等を防止し、良好な生産環境の維持に努めます。

- ・ 無秩序な開発等の防止と、良好な生産環境の維持

## （7）集落地域

市街化調整区域内の集落地域については、周辺環境との調和に配慮しながら、地域の状況を踏まえた土地利用の誘導や生活基盤の適切な整備・改善により、居住環境の向上を図ります。

また、大規模指定既存集落制度を適正に運用するとともに、集落の状況により、住環境の保全や地域コミュニティの維持・改善などを図るため、地区計画の導入を検討します。

- ・ 地域の状況に応じた土地利用の誘導
- ・ 道路や給排水施設などの生活基盤の適切な整備、改善
- ・ 大規模指定既存集落制度の適正な運用
- ・ 地区計画の導入の検討

## （8）山林地域

山林については、水源かん養機能や景観形成、環境保全など多様な機能を有しており、市の風景を特徴づける自然景観を構成していることから、適切な管理・保全と、環境に影響を与える施設立地の抑制に努めます。

- ・ 山林の適切な管理・保全
- ・ 環境に影響を与える施設立地の抑制

## （9）水辺地域

市内を流れる烏川、神流川、鎗川、鮎川、三名川、三波川及びその他の中小河川については、河川の安全性の確保に努めます。

サイクリングロードについては、維持・管理に努めます。

- ・ 河川の安全性の確保

## 2 土地利用誘導施策の基本方針

市域の土地利用を計画的に誘導するため、市街化区域及び市街化調整区域の区分の見直しや用途地域をはじめとする地域地区等の見直しについて、総合的に取り組みます。

### (1) 幹線道路沿道地区

国道17号、国道254号、主要地方道前橋長瀬線、都市計画道路小林立石線の幹線道路沿道については、将来的な土地利用を勘案の上、周辺の土地利用の整合に配慮しながら、良好な沿道市街地の形成に努めます。

### (2) 藤岡インターチェンジ周辺地区

藤岡インターチェンジ周辺については、新都市拠点整備に向けた複合的な高次都市機能の導入とあわせ、必要な範囲で市街化区域への編入を図るとともに、適切な用途地域の指定、さらには利用方針に則した地区計画の指定を検討します。


















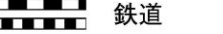
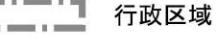
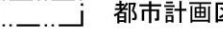
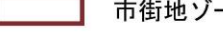
### (3) 岡之郷下郷地区

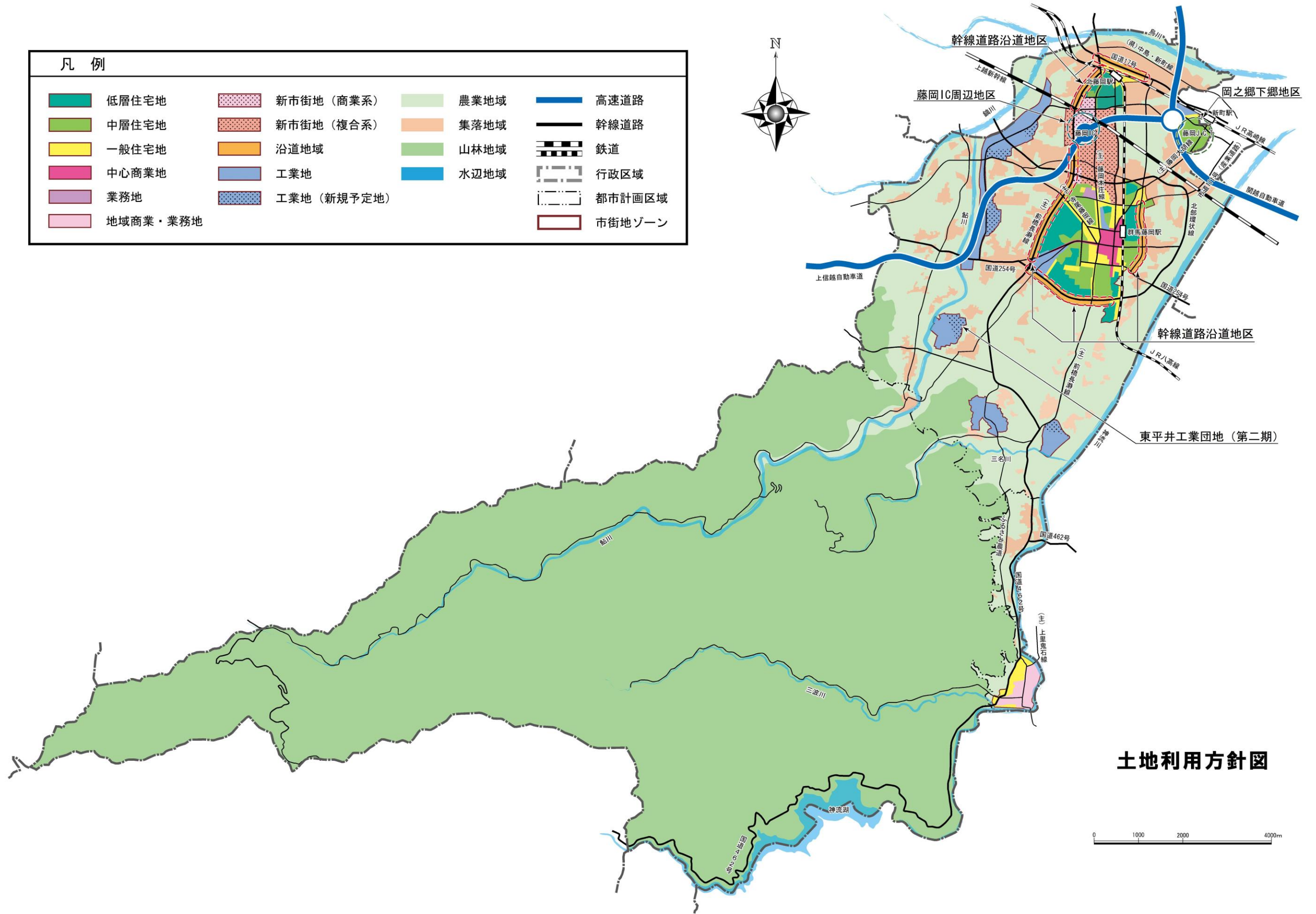
岡之郷下郷地区は、古くからの市街地形態を今に残しており、狭あい道路や見通しの悪い道路などが多く、交通における安全性が確保されていない状況にあります。今後、都市計画道路藤岡インターチェンジ北口線や新町駅南通り線の整備事業、またJR高崎線新町駅付近連続立体交差化事業などと連携を図りながら、地区計画等を活用した市街地整備を検討します。

### (4) 東平井工業団地（第二期）

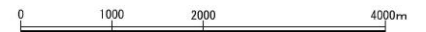
東平井工業団地（第二期）については、事業の進捗を勘案しつつ、必要な範囲で市街化区域への編入や適切な用途地域の指定を行います。



| 凡 例   |          |   |            |
|---|----------|---|------------|
|  | 低層住宅地    |    | 新市街地（商業系）  |
|  | 中層住宅地    |    | 新市街地（複合系）  |
|  | 一般住宅地    |    | 沿道地域       |
|  | 中心商業地    |    | 工業地        |
|  | 業務地      |    | 工業地（新規予定地） |
|  | 地域商業・業務地 |  | 農業地域       |
|   |          |  | 集落地域       |
|   |          |  | 山林地域       |
|   |          |  | 水辺地域       |
|   |          |  | 高速道路       |
|   |          |  | 幹線道路       |
|   |          |  | 鉄道         |
|   |          |  | 行政区域       |
|   |          |  | 都市計画区域     |
|   |          |  | 市街地ゾーン     |



土地利用方針図







## 3 都市施設等の整備方針

計画的な土地利用の推進や魅力ある市街地環境の整備、定住の基礎となる快適で個性的な居住環境の実現を目指し、総合的な都市施設の整備を進めます。

### (1) 道路・交通施設の整備方針

#### ① 整備目標

- 道路基盤の充実に向け、周辺市町村や高速道路へのアクセスの向上を図ります。
- 道の駅らん藤岡の機能を充実させ、高速道路交通の拠点とします。また、藤岡インターチェンジ周辺を含め、道路ネットワーク機能を強化します。
- 公共交通の利便性の向上を図ります。
- 自転車走行空間（自転車走行レーン）の確保に努めます。

#### ② 道路の整備方針

##### a) 広域幹線道路（広域交通軸）

通過交通の円滑な処理や、広域拠点施設間のアクセス向上に資する広域幹線道路については、今後も整備を促進するとともに、県道の未開通区間の整備を県に要望します。

また、今後の交通需要に対応して、本市の東西を結ぶ主要幹線として現在整備中の北部環状線の早期完成に努め、市街地内の交通渋滞の緩和を図ります。特に、主要地方道前橋長瀬線の柳瀬橋付近については、都市計画道路としての位置づけや橋梁の架替えに向けた働きかけを行います。

##### b) 幹線道路（地域交通軸）

都市計画道路は、市街地内の交通渋滞の緩和のほか、災害時の避難や消防活動を支える重要な基盤であることから、今後も整備に向けた取り組みを進めます。

また、県道等については、利便性や安全性の向上を図るため、拡幅・改良による歩道整備や信号機、街路灯などの交通安全施設の整備を県に要請します。

##### c) 生活道路の整備

国道・県道の補完的な役割を担う幹線市道については、地域間などを結ぶネットワークづくりのため、整備を積極的に進めます。

市街化区域内については、行き止まり道路や狭あい道路の解消による利便性の向上や宅地利用の増進を目指し、生活道路の計画的な整備・改良を図ります。

さらに、車椅子などの通行に配慮した道路の段差解消をはじめ、歩行者・自転車などが安全に通行できるよう、交通安全施設の整備を進めます。

### d) 高速バスターミナル機能の拡充

道の駅から藤岡の高速バスのりばについては、現行の路線以外に利用者ニーズに応じた路線検討を行い、また、高速バスターミナル及びパークアンドライド駐車場としての機能拡充を検討します。

### e) 中心商業地における駐車場・駐輪場の確保

中心商業地の利便性と回遊性の向上を目指し、既成の駐車場・駐輪場の利用促進を図るとともに、必要に応じ、低未利用地を活用するなど駐車場・駐輪場の確保を検討します。

## ③ 都市計画道路の整備・見直し方針

都市計画道路については、2011年度（平成23年度）に変更を行いましたが、今後の人口減少や少子高齢化など、社会情勢の変化を踏まえつつ、必要に応じて検証や見直しに取り組みます。

## ④ 交通施設の整備方針

### a) 路線バスの整備

基幹公共交通軸を走る路線バスについては、市街地内の主要な生活利便施設を利用することができるよう、走行ルートの見直しを検討します。

また、中心拠点と地域拠点、周辺の集落を連絡する補助公共交通軸については、都市における移動の確保、利便性の向上を図ります。

### b) JR高崎線新町駅へのアクセス強化

JR高崎線新町駅については、都市計画道路藤岡インターチェンジ北口線や新町駅南通り線の整備事業、またJR高崎線新町駅付近連続立体交差化事業などを通じてアクセス強化を図ります。

### c) JR八高線北藤岡駅周辺整備の推進






















JR八高線北藤岡駅周辺については、北藤岡駅周辺土地区画整理事業の進捗にあわせて、公共交通拠点としての機能の向上を図ります。

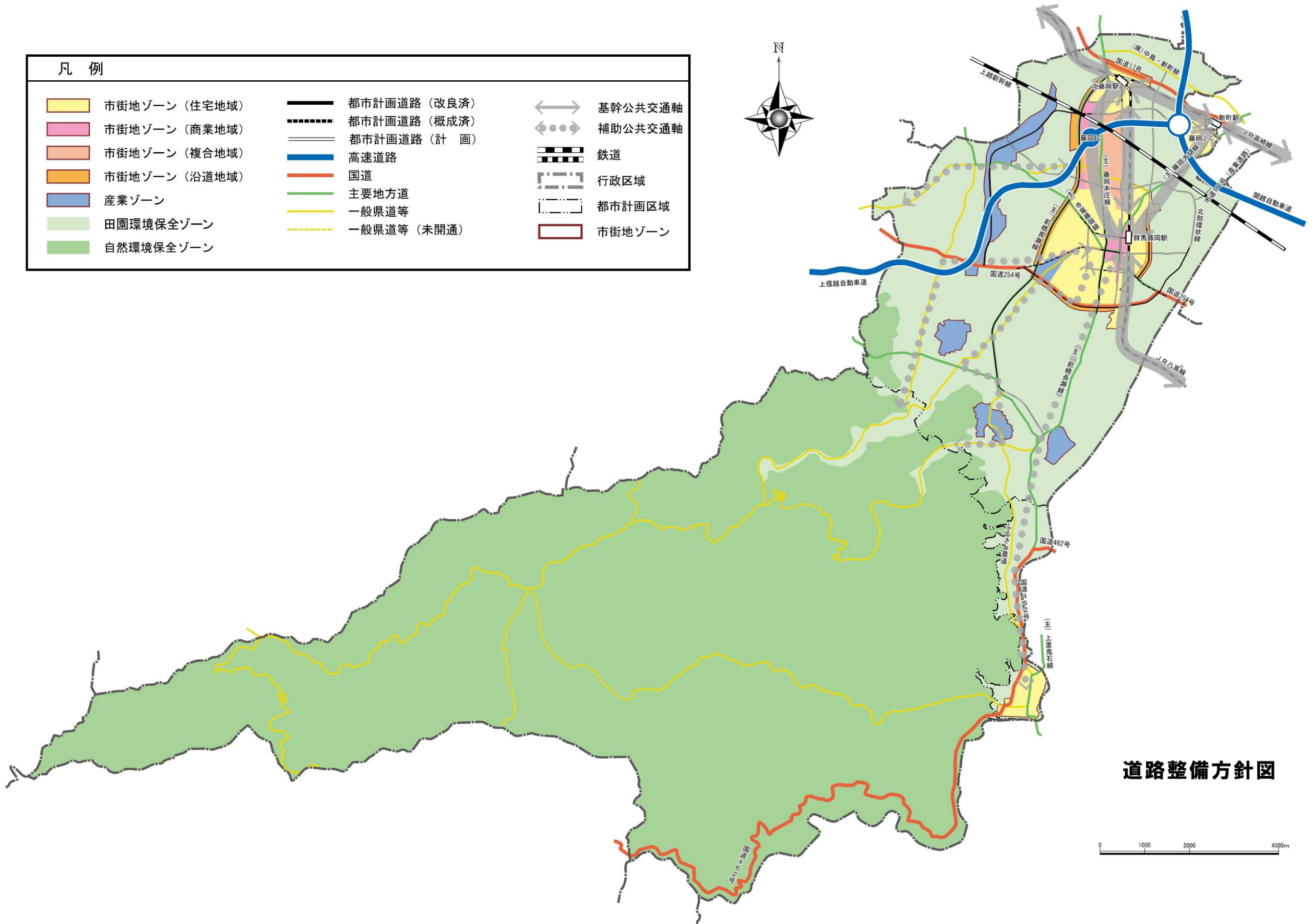
### d) JR八高線の輸送力の改善

JR八高線については、通勤・通学など市民生活に不可欠な公共交通機関として、沿線市町とともに列車の増発、増結、高速化及び高麗川駅以北の早期複線電車化など、輸送力の改善と利便性の向上を働きかけます。さらに、駅舎のバリアフリー化など利用者の利便性を高める施設改善を検討します。

### e) 誰もが使いやすい公共交通システムの構築

市内の公共施設、商業地、観光スポット等を結ぶ地域間の移動において、誰もが使いやすい公共交通を構築するとともに、利便性の向上を図ります。

| 凡 例   |               |   |              |   |         |
|---|---------------|---|--------------|---|---------|
|  | 市街地ゾーン (住宅地域) |  | 都市計画道路 (改良済) |  | 基幹公共交通軸 |
|  | 市街地ゾーン (商業地域) |  | 都市計画道路 (概成済) |  | 補助公共交通軸 |
|  | 市街地ゾーン (複合地域) |  | 都市計画道路 (計 画) |  | 鉄道      |
|  | 市街地ゾーン (沿道地域) |  | 高速道路         |  | 行政区域    |
|  | 産業ゾーン         |  | 国道           |  | 都市計画区域  |
|  | 田園環境保全ゾーン     |  | 主要地方道        |  | 市街地ゾーン  |
|  | 自然環境保全ゾーン     |  | 一般県道等        |   |         |
|   |               |  | 一般県道等 (未開通)  |   |         |



道路整備方針図



## (2) 公園緑地の整備方針

### ① 整備目標

- 本市の個性を活かしながら、公園緑地が有する多様な機能（環境保全機能、レクリエーション機能、防災機能、景観形成機能等）が十分発揮できるよう整備を推進します。
- 市民の憩いの場、スポーツ・レクリエーションの場、子どもが安心して遊べる場を確保するため、市街地や集落地内における身近な公園の整備を進めます。
- 緑豊かな生活環境を形成していくために、都市公園、道路、河川、公共施設などの緑化をはじめ、市街地の大半を占める民有地における緑化の協力を働きかけます。

### ② 公園緑地の整備方針

#### a) 公園の整備

##### ■都市基幹公園

都市レベルにおいて、市民にとってのスポーツ・レクリエーション拠点となっている庚申山総合公園及び藤岡総合運動公園については、さらなる機能向上に努めます。

毛野国白石丘陵公園については、市民の休養、運動、教育、自然、文化のふれあいなどを通じて、健康の維持・増進、文化活動の育成などが可能となるよう整備を進めます。また、本市を代表する歴史的文化遺産である七輿山古墳及び白石稲荷山古墳については、保存・整備に努めます。

##### ■防災公園

自然災害への備えから、仮設住宅用地や支援物資の集配拠点としての機能を持ち、備蓄倉庫や災害用ヘリポートなどを備える防災公園の整備を進めます。

##### ■その他の公園

その他の公園については、周辺環境との調和を図りながら、本市の文化・歴史に配慮した整備を進めます。

#### b) 緑地等の保全

庚申山一帯と三名湖、竹沼貯水池周辺の緑については、本市の緑の核として保全に努めます。

また、緑の軸、オープンスペースとして重要な役割を担っている烏川、神流川、鎭川、鮎川、三名川、三波川などの環境保全に努めます。




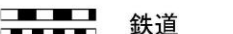


















さらに、七輿山古墳、土師神社など、古墳や社寺林の緑地については、市固有の緑地空間及びランドマークとして保全に努めます。

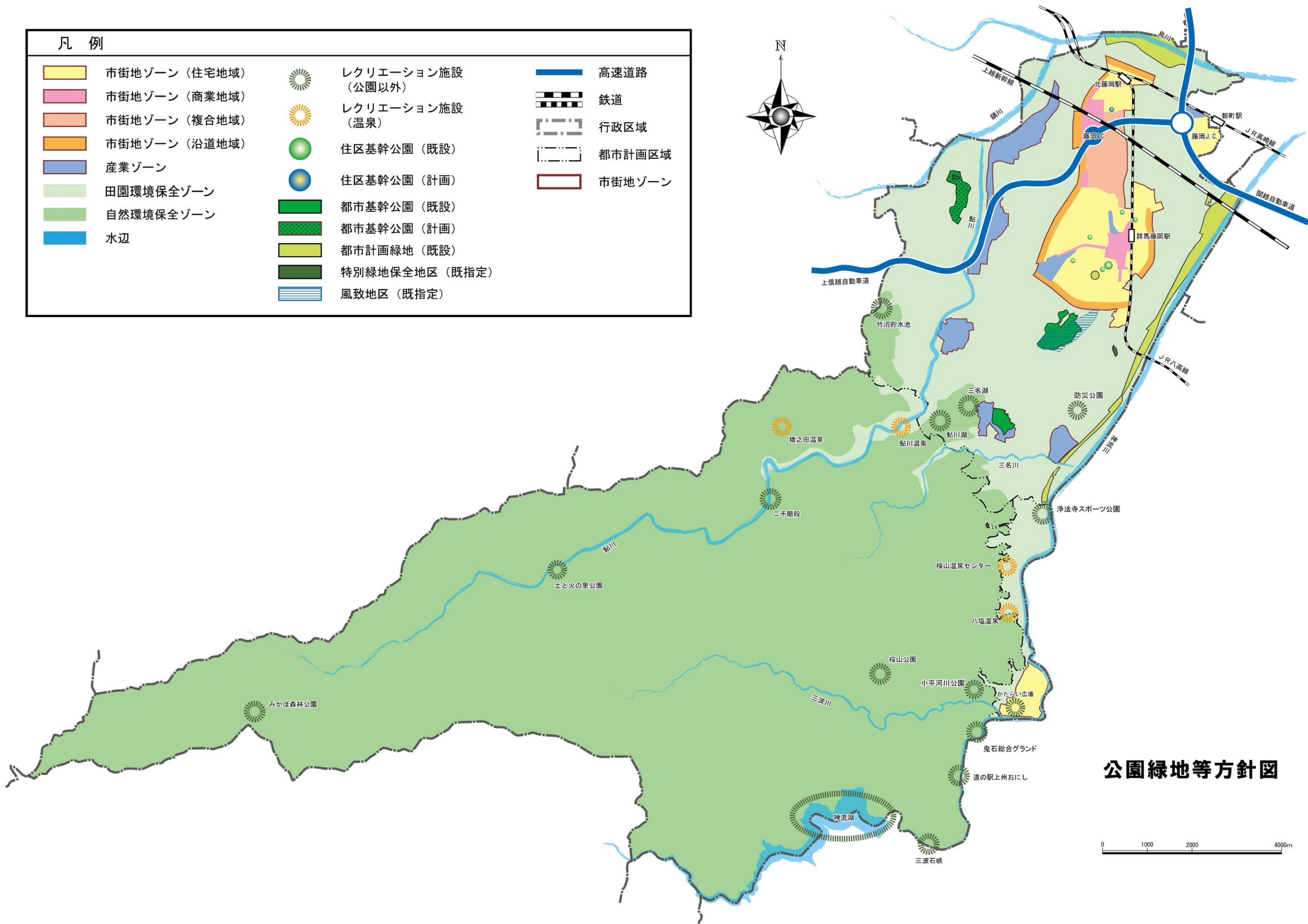
### ③ 市街地内の緑化

市街地では、公共施設等の緑化などを行うとともに、市民・企業の主体的な活動による住宅地や工業用地の緑化を促進します。





| 凡 例   |                  |   |        |
|---|------------------|---|--------|
|  | 市街地ゾーン（住宅地域）     |  | 高速道路   |
|  | 市街地ゾーン（商業地域）     |  | 鉄道     |
|  | 市街地ゾーン（複合地域）     |  | 行政区域   |
|  | 市街地ゾーン（沿道地域）     |  | 都市計画区域 |
|  | 産業ゾーン            |  | 市街地ゾーン |
|  | 田園環境保全ゾーン        |   |        |
|  | 自然環境保全ゾーン        |   |        |
|  | 水辺               |   |        |
|  | レクリエーション施設（公園以外） |   |        |
|  | レクリエーション施設（温泉）   |   |        |
|  | 住区基幹公園（既設）       |   |        |
|  | 住区基幹公園（計画）       |   |        |
|  | 都市基幹公園（既設）       |   |        |
|  | 都市基幹公園（計画）       |   |        |
|  | 都市計画緑地（既設）       |   |        |
|  | 特別緑地保全地区（既指定）    |   |        |
|  | 風致地区（既指定）        |   |        |



公園緑地等方針図

0 1000 2000 4000m



### (3) 下水道等の整備方針

#### ① 整備目標

- 公共下水道事業を積極的に推進することにより、公衆衛生の向上を図るとともに、良好な生活環境を実現し、美しい水環境の維持を目指します。

#### ② 下水道等の整備方針

##### a) 公共下水道

河川・水路等の公共用水域における水質の保全と、快適な生活環境の実現のため、事業認可区域 552.4ha の整備を推進します。今後も積極的に事業を推進するとともに、水洗化率の向上に向け、普及・啓発活動に取り組みます。

##### b) 浄化槽の普及・推進

下水道事業認可区域以外の区域については、家庭排水による河川などの公共用水域の水質保全、公衆衛生の向上を図るため、合併処理浄化槽の普及に努めます。

##### c) 雨水排水路

都市化の進展にともなう雨水流出量の増加に対応するため、雨水幹線管渠の整備に努めます。

### (4) その他公共施設等の整備方針

#### ① 整備目標

- 都市活動を支える上での重要な役割を果たしている施設については、必要性和需要等に見合った施設整備や、既設施設の機能維持・向上を進めることで、誰もが暮らしやすい都市環境の構築を進めます。
- 人にやさしいまちづくりとして、様々な人々が利用する公共施設等については、出入り口等における段差解消や手すりの設置等、すべての利用者に配慮した整備に努めます。

#### ② その他公共施設等の整備方針

##### a) 上水道

水道事業については、安全で安定した水の供給を確保するため、老朽化した施設の更新事業を進めます。また、災害時に対応するため、基幹施設の耐震整備事業を推進します。

市が管理する簡易水道・小水道は、安定した水の供給を確保するため、老朽化した施設の更新事業を進めます。また、組合管理の小水道は、適正な維持管理・施設整備の支援を行います。

##### b) 市営住宅

市営住宅の適正な管理を行うとともに、公営住宅法（昭和 26 年法律第 193 号）に定める耐用年数を超えた木造住宅は、災害時の倒壊の危険性を考慮し、計画的に除去します。

### c) ごみ処理施設（一般廃棄物処理）

本市におけるごみ処理は、藤岡市清掃センターと鬼石資源化センターの両施設を併用していますが、施設の老朽化が進んでいるため、新たな廃棄物処理施設設置計画を策定します。

また、鬼石資源化センター最終処分場については、将来の施設利用計画を検討します。

### d) 医療施設

公立藤岡総合病院と藤岡市国民健康保険鬼石病院の連携を強化し、機能分担を図ります。さらに、関係機関と連携し、救急医療体制の整備・充実を図ります。

### e) 社会福祉施設

保育施設については、老朽化施設の改築や大規模改修を進めるとともに、多様化する保育ニーズに対応するため、保育施設の民間委託や保育内容の充実等、保育環境の整備に努めます。

児童福祉を充実させるため、学童保育施設を各小学校区単位に設置し、安全で充実した環境を提供します。

### f) 社会教育施設

公民館については、自主的な生涯学習の場として幅広い年齢層の市民が快適に利用できるよう、老朽化した施設の改善と整備を計画的に進め、利用の促進を図ります。

図書館については、蔵書・視聴覚資料などの充実を図り、親しまれる施設づくりに努めます。また、移動図書館車を含め館外サービスの充実・改善に努めます。

### g) 文化施設

みかぼみらい館を拠点として、芸術文化に接する機会の拡充を目指すとともに、市民の自主的な芸術文化活動を振興するため、文化関係団体の育成支援、文化施設の整備に努めます。

また、市民ホールや鬼石多目的ホールは、今後も市民の芸術・文化活動を支援するため、施設整備と維持管理に努めます。

### h) 観光施設

土と火の里公園、桜山公園、ふじの咲く丘などの観光レクリエーション施設については、自然体験型施設の充実などにより、観光機能の強化に努めます。

### i) 情報・通信施設

住民情報、地図情報、文書管理システムなどの整備・充実を図り、電子自治体の構築を目指します。

また、広報ふじおか、市ホームページ、市長への手紙、情報配信サービス（ほっとメール）、公式ツイッターなどの広報広聴事業内容の充実や情報公開の推進に努め、市民と行政との情報の共有化を図ります。さらに、個人情報保護の徹底を図ります。



## 4 都市環境の形成・保全等の方針

### (1) 目標

恵まれた自然環境と調和した都市環境を、本市の大きな財産として次の世代に引き継ぐため、自然環境の積極的な保全を図ります。

河川等の水辺については、市街地の貴重な自然環境として、また、水生生物などの生息地として、生態系に配慮した保全に努めます。

### (2) 都市環境の形成・保全等の方針

#### ① 水辺環境の保全・創出

河川等の水辺については、公共下水道の整備や合併処理浄化槽の設置等による水質の保全を図り、多様な生き物が生息できる環境を保全・創出します。

また、ごみの河川敷への不法投棄を防止するため、官民協働による環境美化を推進します。

#### ② 緑の保全

風致地区に指定されている庚申山周辺や、特別緑地保全地区に指定されている七輿山古墳及び土師神社境内地については、今後も都市近郊の貴重な緑として保全します。

本市の貴重動植物であるオオタカやヤリタナゴ、ヤマネ、キンラン、エビネなどを保護するとともに、緑豊かな自然を守り、そこに流れる清流を後世に残していくため、自然環境の保護・保全に努めます。

#### ③ 生き物の生息環境（ビオトープ）のネットワーク形成

本市に残る自然環境（生き物の生息環境）のより詳細な実態把握に努め、ビオトープの核（コア）となる山林や水辺等、拠点となる社寺林・屋敷林等の保全、それらを結ぶ回廊（コリドー）となる緑化された道路、農地等の保全・創出を図り、ビオトープネットワークの構築を目指します。

## 5 都市景観の形成方針

### (1) 目標

本市における世界に誇る歴史文化と四季折々に彩りを変える豊かな自然による貴重な景観資源を、まもり、育て、未来に引き継ぐため、地域特性に応じた景観を保全・整備するための基本的な方針を定めた「藤岡市景観計画」に基づき、魅力ある本市の景観を創り上げます。

### (2) 都市景観の形成方針

#### ① 自然景観の保全

緑濃き森林が織り成す景観を保全するとともに、緑を基調とした景観を損ねる行為の規制・誘導、斜面緑地の適切な維持管理、水辺の景勝地の保全・活用等により、自然景観の保全に努めます。また、河川の水質の維持・保全及び沿岸の適切な管理を進めるとともに、水辺を基調とした景観に調和した施設の誘導を図るほか、水と緑の拠点景観に位置づけられる大規模な公園において、既存の緑地や地形等を活かし、自然の豊かさを印象づける景観の魅力を高めます。

#### ② 歴史的文化的景観の保全


















世界遺産に登録された高山社跡周辺において、往時をしのばせる景観を優先的・重点的に保全するとともに、土地利用や建築立地を適切に誘導し、魅力的な景観づくりを進めます。また、七輿山古墳や白石稻荷山古墳などは、本市の悠久の歴史文化を語る景観資源として保全するとともに、周辺を含めた環境の維持・確保により、周囲の山並みを眺める眺望点、桜などの名所にふさわしい景観として魅力を高めます。

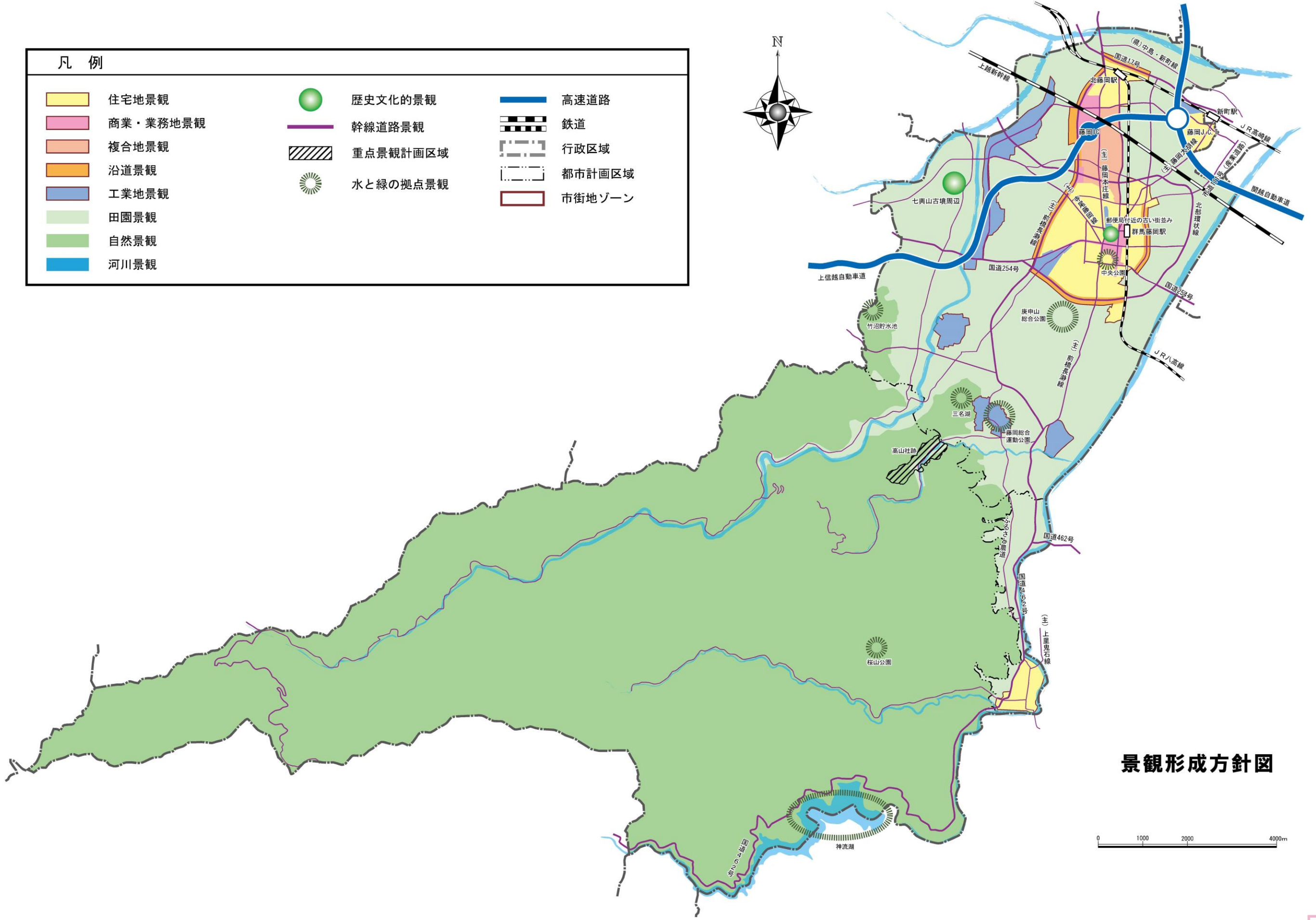
#### ③ 公共空間の景観形成

道路及び沿道の景観については、自然豊かな景観に調和した道路景観の修景、道路沿道における屋外広告物等の適切な誘導などにより良好な道路景観を創出します。また、市内外の人々が訪れる官公庁施設等の公共施設については、市の木「もくせい」や市の花「藤」等の植栽による藤岡らしさを創出するとともに、新たに整備する施設についても周辺建築物との調和や景観面に配慮した対策を推進します。

#### ④ 市街地等の景観形成

中心拠点においては、空き店舗対策などにより、にぎわいの感じられる街並みの再生を目指すとともに、街並みとしてのまとまりや連続性に配慮した建築物や屋外広告物の掲出などを誘導します。また、住宅地においては、色彩が調和し、安らぎの感じられる暮らしの場に相応しい街並みの景観を育てます。さらに、工業地については、周辺景観との調和に配慮した景観形成を誘導します。

| 凡 例   |          |   |          |   |        |
|---|----------|---|----------|---|--------|
|  | 住宅地景観    |  | 歴史的文化的景観 |  | 高速道路   |
|  | 商業・業務地景観 |  | 幹線道路景観   |  | 鉄道     |
|  | 複合地景観    |  | 重点景観計画区域 |  | 行政区域   |
|  | 沿道景観     |  | 水と緑の拠点景観 |  | 都市計画区域 |
|  | 工業地景観    |   |          |  | 市街地ゾーン |
|  | 田園景観     |   |          |   |        |
|  | 自然景観     |   |          |   |        |
|  | 河川景観     |   |          |   |        |



景観形成方針図



## 6 防災対策の方針

### (1) 目標

地震をはじめ、火災や風水害などの災害時に対して、防災性が高く安心して暮らせるまちづくりに努めます。また、空き家等に関する対策を推進します。

山地・河川災害防止のため治山・治水対策を実施します。

### (2) 防災対策の方針

#### ① 災害に強いまちづくりの推進

##### a) 道路網整備の推進

地震等の災害時における避難路や救援路、延焼遮断帯等としての機能を有する都市計画道路網の整備を推進し、避難場所となる学校や公民館等との防災ネットワークの確立に努めるとともに、緊急輸送道路や避難路となる道路の無電柱化を推進します。

また、災害活動困難地域（密集市街地、狭あい道路密集地等）の解消を図るため、道路の拡幅や代替機能の確保に向けた道路整備を図るとともに、救急搬送等の機能強化を進めます。

##### b) 避難場所における安全性の確保

災害前後における避難から、災害発生後の救援・復旧に至るまで、市民を適切に支援することのできる防災拠点の確保を行うとともに、防災上の拠点となる公共施設や避難場所及び周辺における建築物の耐震・不燃化などの機能促進を図ります。

##### c) ライフラインの確保

災害時の救援、復興を適切に実行するために不可欠な都市基盤である電気、通信、ガス、水道、下水道などの供給施設（ライフライン）等の耐震化を推進するとともに、関係機関との連携強化を図ります。

##### d) 防災公園の整備

仮設住宅用地や支援物資の集配拠点としての機能を持ち、備蓄倉庫や災害用ヘリポートなどを備える防災公園の整備を進めます。

#### ② 空き家等に関する対策の推進

適切な管理が行われないまま放置されている状態の空き家は、防災・防犯・安全・環境・景観の阻害等多岐にわたる問題を生じさせ、地域住民の生活環境に悪影響を及ぼしているものもあります。このため、藤岡市空家等の適正管理に関する条例（平成29年条例第4号）及び藤岡市空家等対策計画に基づき、空き家等に関する対策を推進します。



### ③ 治山・治水対策の推進

#### a) 治山対策





















地滑り対策工や谷止工、森林整備などの治山事業を推進し、山地災害の防止に努めます。

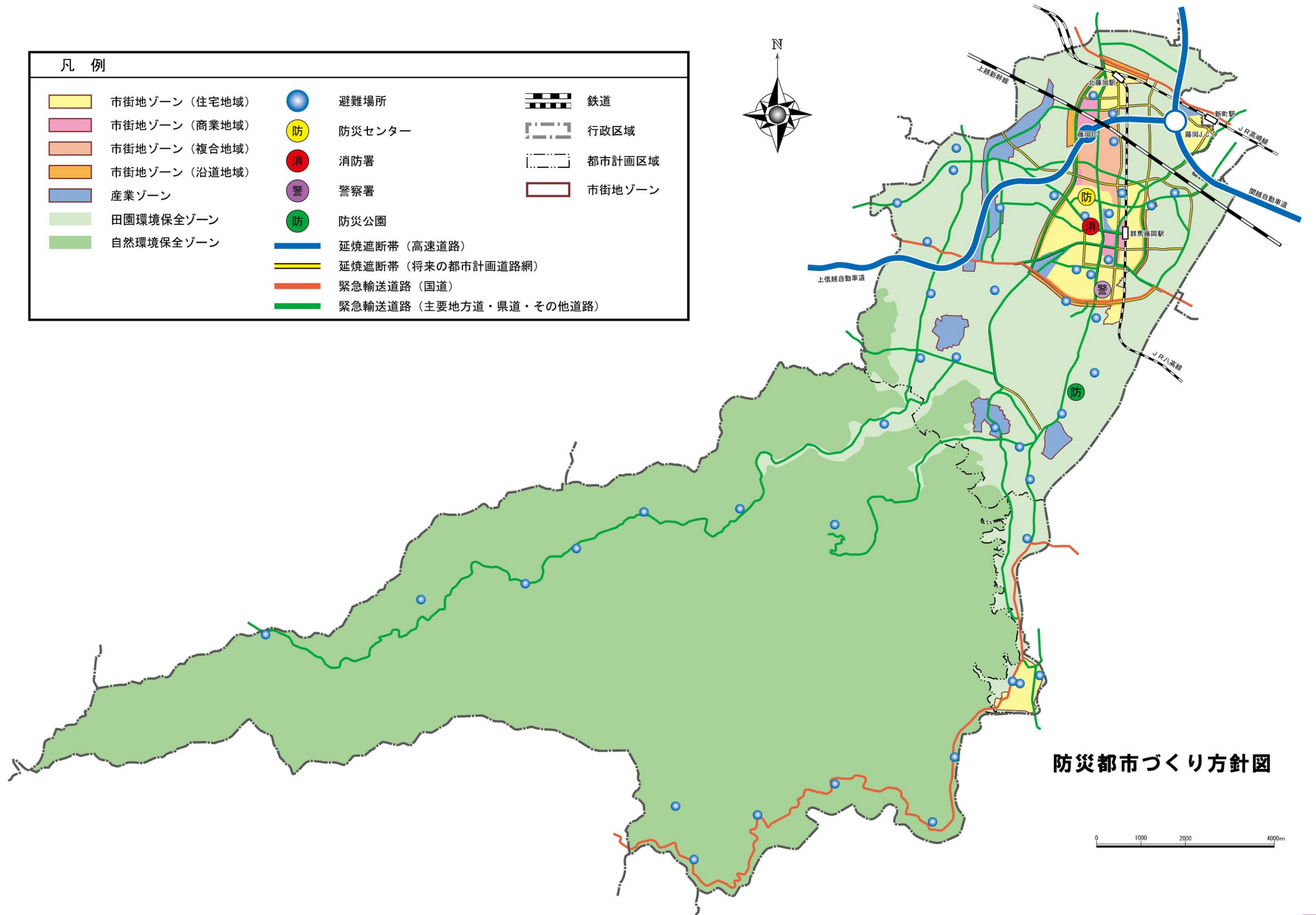
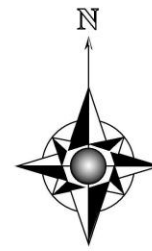
#### b) 河川・水路等の整備

大雨時における市街地の冠水等の水害対策として、現在受け入れ先となる河川の計画流下能力を把握し、必要に応じた調整池の整備や市内を流れる河川への排水を行う放水路の整備を検討します。

#### c) 市街地内排水路の整備

都市化の進展にともなう雨水流出量の増加に対応するため、排水路、排水ポンプ場などの施設整備や下水道（雨水）事業の促進を図ります。

| 凡 例   |              |   |                        |   |        |
|---|--------------|---|------------------------|---|--------|
|  | 市街地ゾーン（住宅地域） |  | 避難場所                   |  | 鉄道     |
|  | 市街地ゾーン（商業地域） |  | 防災センター                 |  | 行政区域   |
|  | 市街地ゾーン（複合地域） |  | 消防署                    |  | 都市計画区域 |
|  | 市街地ゾーン（沿道地域） |  | 警察署                    |  | 市街地ゾーン |
|  | 産業ゾーン        |  | 防災公園                   |   |        |
|  | 田園環境保全ゾーン    |  | 延焼遮断帯（高速道路）            |   |        |
|  | 自然環境保全ゾーン    |  | 延焼遮断帯（将来の都市計画道路網）      |   |        |
|   |              |  | 緊急輸送道路（国道）             |   |        |
|   |              |  | 緊急輸送道路（主要地方道・県道・その他道路） |   |        |



防災都市づくり方針図

0 1000 2000 4000m

